ブックビジネス2.0 ウェブ時代の新しい本の生態系

岡本真, 仲俣暁生●編著

金正勲, 津田大介, 長尾真, 野口祐子, 橋本大也, 渡辺智暁●著

実業之日本社

2010年

四六判変型

240p.

1,995円(税込)

ISBN 978-4-408-10853-7

情報管理 53(12), 715-715, doi: 10.1241/johokanri.53.715 (<http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.53.715>)

岡本真（アカデミック・リソース・ガイド代表取締役）、金正勲（慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科准教授）、津田大介（インターネットユーザー協会代表理事）、長尾真（国立国会図書館長）、野口祐子（弁護士、クリエイティブ・コモンズ・ジャパン常務理事）、橋本大也（データセクション代表取締役）、渡辺智暁（国際大学GLOCOM主任研究員）という^{そうそう}錚々たる7人の著者が本をめぐる未来を構想する本である。

発売は“電子書籍元年”と呼ばれた2010年であるが、企画が始まったのは2009年の初秋で、その間に起こった（電子書籍端末の発売、ソーシャルメディアの隆盛等）さまざまな「ダイナミックな動きに刺激を受けるなかで編集」（6頁）された。それゆえか著者の顔ぶれ同様、内容也多岐にわたる。印税、著者と出版社の新たな関係、読者との関わり方など、多くの人がタイトルからまず連想すると思われる、「ブックビジネス」についての考察が前半部を占める。中盤は図書館の近未来像、国立国会図書館を中心とした電子書籍配信構想などアカデミックな論考が展開される。そしてそれらすべてに関わってくるであろう、新しい制度設計に関する提言（著作権とライセンス、フェアユース、政策課題等）が後半部となっている。

本書の企画が動き始めた2009年初秋といえ、
「Googleブック検索」訴訟の和解案をめぐる世界中の出版界が騒然としていたころだ。この騒動は、ベルヌ条約を根幹とする現行の著作権法が、技術の発展に伴い制度疲労を起こしていることを明白にした。現行の著作権法のままでは、複製が著作者にもたらす弊害を抑制することはできるが、また同時にそれ

がもたらす利便性や公益性（本書では科学分野のデータマイニングが一つの例として挙げられている）を抑圧してしまうことになる。そして過度な規制は社会の発展を阻害すると警告し、デジタル時代に相応しい多様なライセンスの必要性が語られている。また、技術の発展により広がる新たな可能性をどこまで社会に取り入れるべきか新しい価値判断が必要になるという野口による指摘の妥当性は、Amazonの電子ブックリーダー Kindleの文章読み上げ機能をめぐる騒動（同機能が音声化権の侵害にあたるとして Authors Guild（著作者団体）が抗議をした結果、著作権保有者が機能制限できるようシステム修正されたが、それを受け視覚障害者団体がAuthors Guildに対し抗議行動を起こした）からも明白だ。

このように本書は、単なる「ブックビジネス」のノウハウ本とは一線を画し、電子書籍時代における知識・情報をめぐる普遍的な社会制度のあり方を提言する内容となっている。

また、本書は電子書籍としても刊行されている（2010年11月17日）。各著者の章を個別に購入できるのはもちろん、ソーシャルリーディング（選択した引用箇所を簡単にツイッターに投稿できる）、ePub ファイル書き出しなど電子書籍ならではの機能を実装している。また今後ソーシャルリーディング機能の追加（ハイライトの追加と共有、メモの書き込みと共有）等が行われる予定だという。電子書籍の可能性を追求していくこのような取り組みが、新たな「ブックビジネス」を切り開いていくことを期待したい。

（『情報管理』編集事務局）